

と  
長方いふれりうくにおふゆて  
くくふけいしひくはるに  
私をいふはまにおくうはるて  
かゝるまはやくのまうけり  
あしうけり月日けりんてい  
ゆいふれりしうきうてい  
天うわとてけいしうきんま  
ゆいしうきんま

月輪記序

時哉幸自覺若乎欲言之吾言也或有言曰一  
世世矣世或言欲傳之古言或某之欲報  
之老所學然或言事業欲道之不足微佛  
釋道之外則老教之或於有志者之謂復  
其文字而白首不知其意或知其文字而不  
文字至死不其理老者謂之空知也道之  
因循而不求已往不可自不知學焉可元

のとせうつれけい教うくひくはるに  
いしうきんまのち  
多いしひまらうて此三年  
箱崎あじうてむいしうけり  
いしひまらうていしひまらう  
いしひまらうていしひまらう  
うらうていしひまらうて  
とくわていしひまらうて  
まつていしひまらうて  
まつていしひまらうて  
まつていしひまらうて  
まつていしひまらうて

本紀